

# 「生き方によって選びを示すⅡ ～ 建て上げる～」

I ペテロ 2:1-10

日本の絵本作家でもあり、廣栄堂本店「元祖ぎびだんご」- 岡山県和菓子屋のお菓子で、包装紙やコマースシャルでのキャラクターを描いている五味太郎さんをご存じでしょうか？ある学校が彼の本を入試問題に使用しましたが、その問題を本人が解いたところ合格点がとれませんでした。それは五味さんが絵本に対して描いた意図と試験の出題者がくみ取った絵本意図が同じではなかったからでした。このように私達も、神様が送ったメッセージ、イエス様の生き方をわかっているつもりになっているだけで、本当はわかっていないかもしれません。救い主をあれほど待ち望んでいたパリサイ人がイエス様を十字架にかけてしまいました。私達も同じ様な事はないでしょうか？ペテロの手紙は、散らされた先の見えぬ人々に対して、人生をかけて書かれた遺言です。それは21世紀の終わりにいる私達の状況に似ています。当時は武力による圧力、今はインターネットによる圧力の中にあります。その中でどう物事を見極めていくのか、私達は生き方によって選びを示していく必要があります。

## ■ 捨てられた石

「主は人々に捨てられたが、神の目には選ばれた尊い生ける石です。(2:4)」「より頼んでいてあなた方は尊い者ですが、より頼んでいない人々にとっては、家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった(2:7)」「人々が評価しない事、喜ばない事、何でという事の中に、神様が教えたい大事な事が隠されています。だから慕い求めないと見つける事が出来ません。今コロナ禍の社会の中でマスクをつけるように言われていますが、大切なのは相手にうつきない「愛」の為であって自分がうつらない為ではありません。目に見える事の裏にある事に目をとめなければいけません。外面や見えるところを気にして目が向きませんが、大切なのはそこにいる人達がどう感じるかです。イスラエルの人々は神殿を大切にしてきました。イエス様はこれを倒して建て直すと言われました。神殿とは何でしょう。それは建物(外側)ではありません。

## ■ 教会とは？

I ペテロには「教会」という言葉はありません。しかし「石」という言葉で表現されています。ペテロは「教会」という言葉を使わず、尚且つその時の人々に寄り添い、理解しやすいよう単数のイエスキリストの元に集められる複数人々、その一人一人が教会であることを配慮をもって伝えました。

- ①「散者達」(単数形)「寄留している」「選ばれた人々」(複数形)
- ②「霊の家」(単数形)「生ける石」(複数形)
- ③「選ばれた種族」「王である祭司」「聖なる国民」「神の所有とされた民」(単数形)「旅人」「寄留者」(複数形)

あらゆる表現を用いてペテロは「教会」を表現していますが、一番伝えなかったのは「つまずき」です。つまずきの石とありますが、人々がイエス様につまずく事と、私達自身につまずくのは違います。神様の言葉を語ると人々がつまずくかと思っているなら勘違いです。I ペテロは「あなたの生き様を通してイエスキリストを現す」ことを勧めています。それは良い人になれと言っているものではありません。自分自身の変化です。聖書から正しいことを知っている私達は往々にして人に伝えようとしてしまいます。その結果、行いが伴わず口先だけになってしまいます。イエス様は違いました。天上から私が主であるとは言われず、馬小屋という世の中の底辺と言えるようなところで生まれました。そして人々に寄り添い向き合いました。その生き方は愚かに見えたので当時の人々は驚き、つまずきました。でもそれが土台です。だからこそイエス様がどう生きたかわかっていないと、土台がない事になります。私達が人につまずきを与えている事が、神様から見ると尊い行動かどうか考えてください。尊いとは、イエス様の様になっているかどうかです。イエス様は「つまずきの石、妨げの岩」なのです。

## ■ 選ばれた石

むかし、建物を建てる時人々は当てになる大きな石だけを残して小さな石は捨てました。しかし、神様がなされることは違います。人々が見向きもしないような小さな石もすべてを捨てることなく、イエスキリストの十字架というコンクリートを基礎にして教会を建て上げたのです。これが岩盤です。皆さんは選ばれた石です。「見よ、わたしはシオンに選ばれた石。尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない(2:6)」選ばれた私達は失望させられる事はないので、もう一度イエス様をよく知る為に慕い求めていくのです。イエス様がいたらどうするか？どうしなさいと言われるか？最善

で出来る事を探したいのです。神様の与えた志は、人々には理解されぬいかもかもしれません。だからこそ、どう生きるかが大切なのです。

## ■ つまずきの石 イザヤ 8:14

彼らがつまづくのは、御言葉に従わないからです。又そうなる様に定められていたのです(2:8)つまづくように定められているとはどういう事でしょう。なぜ、神様はエデンの園に木の実を置かれたのでしょうか。天国に帰るまで、神の全能性と選びについて論争されると思いますが、わかっている事は私達が今、ここにいるという事、彼らがつまづいたのは私達の為と言う事です。神様の事をしようとする、一時つまずき起こるものですが、イエス様の様に尊い生き様ゆえにつまずきは回復されます。救いが起きます。でも、自分の生き様によってつまずきが、特に身近な人に起きているという事があります。それはイエス様が受けた迫害とは違います。古い自分が人々につまずき与えているだけで、尊いつまずきではありません。言葉は特に大切です。言葉を発するなら、その様に生きなければいけません。言っている事とやっている事が違う姿を見る時につまずきが起こるのです。尊いつまずきは回復される時がきます。しかし、そうでないつまずきは違います。罪深いつまずきは戻ることができません。私達は言葉によって人を変えることを止めなければなりません。特に近い存在に対しては感情的に言葉を発して、つまずきを与えてしまいやすいです。でも私達がする事は間違えた時に戻る姿を見せる事です。戻るのは自分自身です。その生き方が伝わっていくのです。

## ■ 愛に生きる

やる事が100%愛でないと上手くいきません。相手に届きません。愛は真剣なので、一時傷つけるかもしれませんが、愛なら届き、実が残ります。私達は裁く事や正しい事を言う事で相手を直そうとしてしまいますが、自分自身が尊い生き方を見せる事が大切です。聖書は自らを見る為の戒めの書なので、自らを見る事をやめたらおしまいです。ペテロはこう言っています。「あなた方は、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に招いて下さった方の素晴らしい御業をあなたが宣べ伝える為なのです。あなた方は、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です(2:9-10)」私達が選ばれたのは、つまずきを回復する為、宣べ伝える為です。

## ■ 宣べ伝える

教会にいる事で安心するのではなく、教会の外の人に愛を現すのが教会です。あなた方一人一人は遣わされた所で牧師です。だから、私達が発する言葉がつまずきを与えてはいけないのです。ペテロもふさわしくはありませんでした。人々の前で「イエス様を知らない」と3度も言い、つまずきを与えました。でも、悔い改めて生まれ変わりました。いい人になる訳ではなく、大切なのは変化したかどうかです。頑なな人達が救われるのは、その人の中にイエス様を見るからです。私達が畏に陥る時に本当にそのやり方でいいのか、その言葉を伝えたままでいいのか。主が愛している事を伝える事ができているのか、御言葉は私達に教えてくれています。私が救われるように神様が計画してくれていたのです。今の私がいいます。だから自分の追うべき十字架を負う生き様を見せて行かなければいけません。自分の中から偽りが、大義名分が、人から評価された心が、比較する心が、出ていくように。神様から言われた事を忠実にやる事が出来る様に。種は大事に持って、まず耕す事、良い関係を作る事が大切です。愛が届いていないと、種を蒔いても実はなりません。良い関係を築いていく為に、主を慕い求めて、自分自身がイエス様の事を良く知っていきましょう。『あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せて、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。』(創4:7)

私達が今していること、判断していることが本当に尊いか…。もう一度自分の生き方が尊い生き方になるようにイエス様の生き方を慕い求め、主の元に戻りましょう。

(要約者:日名 陽子)

(2021年4月25日)